

平成18年度事業報告書
～新たな取り組みも交えて～

平成19年3月

広島経済同友会

1500万人委員会

目 次

1. 「広島三昧倶楽部2006」の取り組み

- イ) 事業開催目的
- ロ) コース設計が決定するまで
- ハ) コース内容
- 二) アンケート集計
- ホ) 参加状況
- へ) 総括

2. 「ひろしま観光交流博士」称号名刺贈呈事業

- イ) 事業目的
- ロ) 事業概要
- ハ) 「ひろしま観光交流博士」称号名刺贈呈式の記録
- 二) 総括

1. 「広島三昧倶楽部2006」の取り組み

イ) 事業開催目的

私ども広島経済同友会1500万人委員会は、広島県内の都市、地域の経済的活性化の手法として、また都市、地域に住む県民市民の自信と誇り、元気を創出する手段として、観光振興に平成14年以来一貫して取り組んで参りました。毎回、対象地域を特定して組み立てる取り組みは、それまでに、誰も、どの組織も開催実績のない企画、規模、コースを企画し実践し可能性を検証してまいりました。

共通する取り組み姿勢は、

1. 地元にある観光資源を守り伝える取り組みをしている地域に呼びかけ、それらの地域に連携を提案し魅力度を高め、新鮮さをだし、過去訪問経験の有る地域でも、もう一度行こうと感じるコース企画を作る。
2. 地元の、伝統芸能、伝統文化、食または味、町並みに愛着を持ち、それらに誇りを持って、実際に支えておられる、または伝える役を務めていただいている地元の皆さんを主役に据え、そのコース企画の魅力度を深める。
3. 企画事業の広報は、報道によって告知していただく報道告知を主とするので当然呼びかけをする地域は県内が中心にならざるを得ない。そのため主に、広島都市圏115万人を対象とし、そのコースの実力・完成度・人気度を検証し旅行商品化への足がかりを目指す。
4. 旅行商品化されたコースの継続開催による地元振興の継続性をめざす。ということを取り組み姿勢に据えています。

その継続の中で、今回はしまなみ海道に取り組みました。瀬戸内海の3本の橋の内、広島県と愛媛県を繋ぐ「しまなみ海道」は、1999年5月一部一般道利用による部分開通し、その後2006年春、全線高速道路が完成しようやく本当のスタートを切りました。

1. 1999年部分開通時に、大渋滞をおこすほどの訪問客を受け入れながら毎年来訪者は減少する一方で、地元はこのままではまずいという危機感があった。
2. その結果、いくつもの団体で協議会を持ち連携の模索をしていた。
3. 平成16年に開催した「広島三昧倶楽部2004」の参加者アンケートで、次に訪問してみたい地域のトップが、「鹿児島」と「しまなみ海道」であり、県民市民の関心度は高いと判断できた。
4. 秋10月には大々的全線開通イベント開催されるという風聞があり、地元も機運が盛り上がっていた。

という状況にありました。

広島経済同友会は、その時点で平行して広域連携の候補地として比較検討していた、1. 倉敷美観地区 2. 松山地区 3. 下関地区 の各コースより優先して「しまなみ海道コース」決定したものです。

このコースは、従前の取り組みで、連携コースに必須の①歴史性 ②景観 ③食 ④地元の人之力 ⑤完成度 ⑥バラエティの多さ ⑦コンパクト度の全てで合格点をつけられる完成度の高さを持っています。

これらの分析により、

1. 国宝の8割を有するという圧倒的日本一の武具甲冑と樹齢2600年以上といわれる楠を含む永い歴史を持つ大山祇神社と、世界最高水準の日本の建築技術の粋である多々羅大橋、そして日本の現代美術の大御所である平山郁夫画伯の故郷瀬戸田に立つ平山郁夫美術館、そして観光都市としての完成度抜群の尾道の町並みを、新幹線、しまなみ海道で巡り訪れるバラエティ豊かなツアーを提供し、広島市民、県民に、この地域が観光資源の宝庫であることを理解いただく。
2. この地域で、観光振興を生業としておられる方々、またはボランティアとして取り組んでおられる方々に纏まった訪問団を送り込むことで自信と誇りを再認識していただく。
3. この地域で観光振興に日々取り組んでおられる皆さんに、このような二次交通利用による強者連携モデルの組み方ができることを示し、今後自主的に取り組まれる上での参考にしていただく。

以上の3つを目的として「広島三昧倶楽部2006」を組み立てることとしました。

ロ) コース設計が決定するまで

今回のループをまわる場合、全部バスにしたらという意見もありましたが、原則ループは同じ道を往復しないことを念頭に置いており、三原から大三島までの交通手段を考えた場合、既存定期便では時間的に好都合な便がないこと、チャーターを走らせるということで考えた場合、フェリーのチャーターより高速艇のチャーターのほうが時間的ロスが少なく乗っていて快適であること、また広島～三原間をバスで走ると1時間30分近くかかり、当会の考える移動時間30分以内の原則に収まらない。バスと新幹線との時間差は往復で考えると2時間以上の違いとなる。これらの事情により、新幹線、高速艇、バスという乗り物を乗り継ぐという設計となりました。

当初、今回のループの検討会議には因島の皆様も参加いただいていたのですが、因島の観光資源が島内で纏まっていないこと、全体の所要時間配分の中に納まらないことなどの理由により因島の皆様のご期待に添うことができませんでした。

大山祇神社の宝物館の展示物は評判どおり非常に充実したもので、予定の時間ではとても足りませんでした。それは今まで、西条でも三原でも竹原でも呉でも、また今回では尾道でもみな同様です。今回は駆け足で見ますから、次回またゆっくりお出かけ下さい、という考えで取り組みいただくことで、各都市ボランティアさんにはご了解をいただきました。

多々羅大橋は世界一の斜張橋であることは知られていますが、バスで走ると 2

分程度です。日本の技術力を実感してもらい、世界一の長さを実感いただくためにも、そして瀬戸の景観をゆっくり味わっていただくためにも歩いていただく、という企画がその目的に沿うものでありますが、本州四国連絡高速道路株式会社のご協力なしにはできないことでした。今回、中国陸運局からお願い申し上げたところ、快諾を頂き毎回社員の方のガイドを実現できました。

瀬戸田の食事は、瀬戸内海汽船グループの「水軍丸」さんにお世話になりました。ご提案いただいた料理を試食させていただき、ボリューム、質ともに限られた予算内でご協力いただくことができました。

平山郁夫美術館のガイドを、画伯の実弟の平山助成館長にお願いしたところ快くお引き受け頂き、期間中は全て館長のご案内をいただけたことが、瀬戸田では、耕三寺コースより圧倒的に美術館コースに人気集中したという結果につながりました。

尾道は、完成度の高い観光都市であり、ボランティアガイド、市の協力も全くスムーズにさせていただきました。ただ、今回のループでの最終訪問地となり、せっかくの景観も途中から夕景に沈むことになったのが残念でなりません。

従前の企画は、三昧エクスプレス、三昧号の2種類のループを運行することにより、同一コースでお客様の好み、予算により訪問地域の滞在時間を選択できるよう組み立てました。今回取り組んでみて、同一コースでの2種類を組み立てることができないということに直面しました。三昧エクスプレスは完全オーダーメイドですが、三昧号は既存交通手段を利用しなければなりません。今回のコースには利用できる交通手段がありませんでした。

まず、三原から大三島の船便は、運行便が少なく時間ロスが多い。大三島に到着して大山祇神社までのバス路線がない。大山祇神社から多田羅大橋経由で瀬戸田を結ぶバス路線がない。瀬戸田から尾道まで結ぶバス路線もない。これは非常に驚きでした。すなわち、しまなみ海道を巡るには自動車しかない、ということです。各橋を通るためには通行料がかかります。広島から尾道までの高速料金と、尾道から大三島までの通行料はほぼ同額ですが、広島から大三島まで自動車で行くと約1万円は通行料がかかります。いろいろな団体・協議会がしまなみ海道振興に取り組んでおられますが、足の便の整備は最初に取り組まなければならないものではないでしょうか。

以上の経緯により三昧号は、三原まで到着したら、在来線で尾道往復して三原まで戻り、船便で瀬戸田往復というループにならないコース設定で、大三島は組み込めないという、今回のセールスポイントである「日本一を見る」ことができない、「世界一を歩く」ことも見ることもできないコースになってしまいました。

広島～三原間の新幹線料金は、JR西日本広島支社の特段の計らいを頂き、全体料金の押し下げをすることができました。

ハ) コース内容

午前	8時49分	JR広島駅	「こだま634号」自由席にて出発
午前	9時14分	JR三原駅	到着 三原港まで徒歩4分

午前 9時30分	三原港を高速チャーター船にて大三島にむけ出港
午前10時00分	大三島井口港到着 チャーター観光バスにて出発
午前10時15分	大山祇神社到着 ボランティアガイドに伴われ大山祇神社解説を受けながら参拝 宝物館も解説を受けながら見学
午前11時30分	大山祇神社出発 観光バス
午前11時45分	多々羅大橋西到着 本州四国連絡高速道路(株)社員の説明を受けながら渡橋スタート
午前12時30分	多々羅大橋渡橋 観光バスにて瀬戸田に向け出発
午前12時45分	瀬戸田 「水軍丸」到着 昼食
午後 1時25分	平山郁夫美術館・耕三寺の2コースに分かれ訪問
午後 3時15分	瀬戸田出発 観光バス 途中、生口島大橋、因島大橋、向島大橋の3橋を経る
午後 4時00分	尾道千光寺公園到着 ボランティアガイドの解説を受けながら千光寺を経て下山
午後 5時00分	浄土寺到着 住職の説明を受けながら浄土寺見学
午後 6時00分	新尾道駅到着 観光バス
午後 6時15分	「こだま669号」にて新尾道出発
午後 6時48分	広島駅到着 解散

二) アンケート集計

資料提供 ひろでん中国新聞旅行

11月4日 『しまなみ海道を巡る広島三昧倶楽部2006』

アンケート集計(集計枚数38枚)

11月4日 快晴 参加人員42名 添乗員 本岡 孝一

1) 広島駅集合から解散までのツアー所要時間は?

長い4名 ちょうど良い29名 短い2名

意見 …冬場に向かって、尾道観光終了が5時30分は遅い。

2) 各地のボランティアガイドの説明は?

A 大山祇神社 分かりやすい30名 分かりにくい4名

長い8名 ちょうど良い20名 短い2名

意見…マイクの音が小さい。すごく良かったのもっと聞きたかった。

B 多々羅大橋 分かりやすい30名 分かりにくい4名

長い3名 ちょうど良い30名 短い0名

意見・・・歩く機会はなく、楽しかった。もっと海や島の話をしてほしい。

- C 平山郁夫記念館 分かりやすい 35 名 分かりにくい 1 名
長い 2 名 ちょうど良い 26 名 短い 3 名
意見・・・時間が長く退屈。時間を持て余した。館長先生の案内がとても貴重だった
- D 耕三寺 分かりやすい 2 名 分かりにくい 0 名
意見・・・坂や石段が多いのには……。参加人数 2 名でした（添乗員）
- E 尾道古寺めぐり 分かりやすい 19 名 分かりにくい 0 名
長い 0 名 ちょうど良い 11 名 短い 6 名
意見・・・時間が少ない。浄土寺をもっとゆっくり拝観したかった。曼荼羅・源氏物語絵巻など素晴らしかった。

3) 瀬戸田：水軍丸の昼食

- A 食事の量 多い 4 名 ちょうど良い 32 名 少ない 0 名
B 食事の味 美味しい 13 名 普通 21 名 美味しくない 0 名
意見・・・サヨリの唐揚げは……。三匹の魚は味がよい、名物にしなくては。お店の方が添乗員が料理や名物を説明したほうが良いのでは。そのほうが顧客満足度が高まる。

4) 今回のツアー満足度は？

満足 24 名 (63.2%) 普通 10 名 (26.3%) 不満 0 名 (0.0%)

- ★たくさんの観光地をガイドと観光出来てよかったが、疲れた。
- ★ガイド（高垣さん）がうまい。
- ★大山祇神社の道の駅にもう少し長く居て買物がしたかった。
- ★料金が少し高かった。
- ★船を定期船利用にして 1 万円ぽっきりになればよかったとおもう。
- ★少し欲張って多すぎる。

5) 今後の「広島三昧エクスプレス」は？

- ★定期船利用でもう少し安価。
- ★西条酒巡り。呉：「海猿」「男たちの大和」関係。広島グルメツアー。
- ★世羅台地（甲山あたり）。
- ★広島の国宝建築（福山・尾道・瀬戸田・広島）。
- ★県北部。
- ★日帰りなのでこのようなツアーでよい。

6) 観光客に勧めたい広島の観光地は？

- ★比治山。市民の憩いの場。景観スポット。ヘンリームーア「アーチ」

の像を中心に。

★尾道（古寺巡り）三次（奥田元玄・小由女美術館）。

★東広島：酒蔵見学。美術館巡り。

★三次・庄原の備北方面。

★備北丘陵公園。

★瀬戸内の夕日と広島市内の夜景が見えるところ。広島に宿泊する観光客の増加は夜の見所を充実させることが大切。

ホ) 参加状況

最終集客報告書

平成 18 年 12 月 22 日

2006 年 『広島経済同友会しまなみ三昧ツアー』の集客人数を下記の通り報告します。

ひろでん中国新聞旅行

担当：有木 知弥

しまなみ三昧エクスプレス号（団体型）

出発日	催行状況	参加人数	取消人数	合計
11月4日	催行決定	43	4	47
11月5日	ツアーキャンセル	0	2	2
11月11日	ツアーキャンセル	0	13	13
11月12日	ツアーキャンセル	0	2	2
11月18日	ツアーキャンセル	0	9	9
11月19日	ツアーキャンセル	0	0	0
11月25日	ツアーキャンセル	0	6	6
11月26日	ツアーキャンセル	0	3	3
12月2日	催行決定	36	12	48
12月3日	ツアーキャンセル	0	13	13
	合計	79	64	143

しまなみ三昧号（個人型）

出発日	催行状況	参加人数	取消人数	合計
11月5日	ツアーキャンセル	0	0	0
11月12日	ツアーキャンセル	0	0	0
11月19日	ツアーキャンセル	0	5	5
11月26日	ツアーキャンセル	0	2	2
12月3日	ツアーキャンセル	0	2	2
	合計	0	9	9
	総合計	79	73	152

参加人数／ツアーが催行できる人数で、出発実施済みの人数
取消人数／ツアーに申込があったが、ツアー実施人数に至らなかったため
取消になった人数

総評

- ・ 団体型／10本設定2本実施 個人型／5本設定0本の実施
- ・ ツアー申込をしていて催行人数に至らず中止になった申込者 73名あり。
- ・ 集客不足に関して、原因は告知が遅れたこと。
料金が消費者のニーズに合わなかったこと。
大きくアピールできるポイントがなかったことが上げられる。

今後実施に関し、上記のことを注意していきたい。

へ) 総括

今回の事業は、目的も内容の充実度も参加者にはご理解を得られましたが、従来と違ったのは、事業がはじまってからの口コミによる参加者増が、ありませんでした。理由を想定いたしますと、この事業が対象としている参加者の皆様にとって、歩行距離が長すぎたことが最大の要因と思われます。従来同様、この事業では、参加各都市に滞在していただく時間をたっぷり確保するというより、ひとつでも多く見ていただく盛りだくさんの内容とし、気に入っていただいた地域は改めてゆっくり回っていただく、というリピーターになっていただくことを優先しております。

それから、不幸にもこの開催時期の週末は天候に恵まれず、県内の多くの地域での来訪も不本意な結果でした。また、本事業組み立ての特色である、高額商品の「三味エクスプレス」と気ままに回るお手ごろ商品の「三味号」の2本立てが、この事業では組み立てられず、謳い文句の「日本一を見て、世界一を歩く」ことができるのは高額商品の「三味エクスプレス」しかないことも火が付かなかった理由かもしれません。しかしながら、この事業の組み立てを通じて、参加各都市の観光振興に取り組まれておられる皆様に、連携の一つのパターンをお示しするという目的は達成できたものと思っております。

2. 「ひろしま観光交流博士」称号名刺贈呈事業

イ) 事業目的

広島経済同友会1500万人委員会の観光振興への今までの取り組みを通しまして、ご来訪いただいた方の印象を大きく左右するのが、地元の人への対応であるということをよく理解いたしました。そして広島にもそのようなご来訪いただく方に職業として対応される方々、またボランティア組織を組み立てられ好意により

対応される多くの方々がおられますことも認識できました。実際、広島経済同友会の今までの活動の中で、趣旨に賛同いただき、共に事業に取り組み支えていただいた団体や組織の方々が多くおられます。

そのような日々の活動をされる地元の方々に、より一層の自信と誇りを持っていただける仕組みを作り上げたいとの気持ちから、そのような取り組みをいただいている皆様に、表彰に替えて、「ひろしま観光交流博士」の称号を差し上げ、表彰状に変えて名刺を贈呈する事業が有益ではないか、との思いでこの事業を計画いたしました。

あわせて、名刺を受け取られた広島へのご来訪の方に、少しでもホスピタリティを感じていただければという思いで、名刺裏面に広島の文化施設の入場割引特典を各施設からのご協賛をいただき付与することができました。

この名刺が、広島にご来訪いただきました皆様に広島の印象を向上させることに繋がり、名刺保有者の皆様がそれぞれの仕事を通じて、自信と誇りを持っていただくことができましたらこの事業の目的は達せられたことになると思います。

ロ) 事業概要

(1) 事業名 観光振興支援のための「ひろしま観光交流博士」称号及び名刺贈呈事業

(2) 配布先

県の各部門の長	15名
広島経済同友会会員支店長	30名
県観光連盟	5名
ボランティアガイド	5名
一般公募	50名以内（新聞発表により一般公募・小論文による資格審査）

その他来広された観光客に接点のある職種の方を追加します。

合計200名以内を目標としましたが最終的には169名

(3) 配布について

お一人当たり100枚を配布

配布された名刺は、県外からの来訪者を原則対象として利用いただくことし合わせて、協賛施設への優待ご利用を促進し、ホスピタリティの醸成をねらいとします。

ご利用実績は、各施設から報告いただき、各施設ごとに集計し、個別に把握いたします。実行期間内にご利用実績の多い方には、ご希望により追加発行もいたします。

(4) 配布開始時期

平成18年7月

(5) 優待内容

名刺をもらった特典として、市内中心部の文化・観光施設である広島県立美術館・縮景園・ひろしま美術館の入場料割引

(美術館につきましては常設展を対象とします。)

1枚で5人まで有効 各施設とも1回限りの特典

(6) 製作費用

広島経済同友会が製作費用を負担し、授与式にてそれぞれの方にお渡しいたします。

(7) 有効期限

名刺の各施設での使用有効期限を平成19年3月末日までとします。期間終了後、関係各機関に継続要望が強い場合は、改めまして再開催の必要性を検討いたします。特典施設はさらに追加できないかの検討もいたします。

ハ)「ひろしま観光交流博士」称号名刺贈呈式の記録

1) 挨拶 1500万人委員会委員長 河野高信

「ひろしま観光交流博士」の表彰事業に取り組んでおります、広島経済同友会1500万人委員会の河野でございます。皆様、本日の贈呈式にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

本日の贈呈式には、公募にお応えいただき、採用とさせていただきました皆様と、前回の贈呈式でお渡しできなかった皆様約40名の方にご出席いただいております。

簡単に応募状況のご報告を申し上げますと、「私のひろしま自慢」で応募いただきました方が10名、「わたしならこうする観光振興」で応募いただきました方が22名となっております。

「ひろしま自慢」について文章を頂きました10名の皆様に取り上げられた、広島素材は、

- ①自然環境としては瀬戸の海、
- ②施設、建築物では平和公園・広島城・本通・地御前神社・不動院など
- ③食としては牡蠣・マツタケ・日本酒・お好み焼きなど でした。

また、「観光振興策」をご提案いただいた22名の皆様の提案の中身は

- ①小中学生向けのスポーツ交流事業の振興
- ②市内観光ループのポイントカード制度
- ③近隣観光地への定期観光便、自転車ロードの整備
- ④広島観光案内セミナーの開催
- ⑤神楽・ピースキャンドル製作などの常設会場整備

などさまざまなお提案をいただきました。

今の広島の観光は、皆様の間でも、自慢の種よりも、振興にどう取り組むかというご意見が多い、というのは心強い限りですし、私どもも参考にさせていただきます。と思っています。

私ども広島経済同友会は平成14年から、観光振興による地域再生への取り組みを始め、今までの活動の中で、

「観光振興では、地域の皆さんが主役になることが非常に重要な要素である」ということを学びました。

そして中でも、来訪者の方々と日常的に接する皆さんの対応が、「**その街の印象を決める上で、非常に大きい**」ということも学びました。

私どもの平成15年、16年の事業では、観光ボランティアガイドさん、JRの職員の皆様、それぞれの町で名物料理を提供いただくお店の皆様、に僭越ながら、スポットをあてる事業計画を進めました。それにより、訪問いただいた方に喜んでいただいただけでなく、お迎えした各地の皆様にも、自信と誇りが芽生えるという2重の効果をあげることができました。

私ども広島経済同友会は、その経緯と成果を踏まえ、地域の方が主役になる観光振興の取り組みをさらに大きくしたい、という考えが、今回の、「観光交流博士」表彰事業への取り組みとなりました。

今回ご応募いただきました皆様の多くが、日常的に、広島にご来訪される方と接する機会の多い職業のみなさんです。拝見させていただきました文章で、どなたも真摯に丁寧にご来訪の方々に接しておられることをうかがい知ることができました。

皆様のご苦勞を思い、そのご苦勞・ご努力に敬意を表するため、「ひろしま観光交流博士」という称号を差しあげ、表彰させていただき、表彰状に代えて名刺を提供させていただきます。

この名刺をお客様に差し出されることで、皆様が、自信と誇りをもってそれぞれのお仕事に取り組んでいただきたい、というのが本制度の趣旨です。

そして名刺の特典を利用された皆様から、「ひろしまの人は親切だね」という言葉を、皆様が受けられることが、我々の願いです。

一人でも多くの方に、広島ファンになっていただきましょう。

本日、「ひろしま観光交流博士」にご就任いただきました皆様を含め、今回、広島県知事を第1号として、総勢169名の博士が誕生されました。169名の博士全員のお力をいただいて、この事業を1年限りで終わらせることなく、来年以降も続けてゆきたいと思っております。

皆様の「ひろしま観光交流博士」ご就任をお祝い申し上げ、併せて事業推進のご支援をお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

2) 名刺贈呈

代表者一人に全員を代表いただき贈呈

その他の皆さんには、事務局から配布

3) 利用上の留意説明

①まずお手元の名刺の記載内容のご確認

②封筒の中の受け取り書に署名いただきお帰りの際、受付にお持ちください。

③裏面の説明

3 施設の入場料金の割引が受けられる

条件の確認 常設展の割引

人数制限

期間が平成18年3月31日までである

各施設での窓口が困るようなことにならないよう、よく説明してさしあげてほしい

- ④この名刺の利用法として、ご自身の紹介もさることながら、この特典をご利用いただくため、ご本人以外がお客様に差し上げても結構です。
- ⑤県から、県の施設については、この特典を受けるための条件として、県外の来訪者にご利用いただきたいと聞いております。厳密な運用ではないですが、明らかに反する利用はお控えください。
- ⑥以上をご留意いただき、せいぜい有効にご活用いただくようお願いします
- ⑦期限までに、名刺をすべて使い切ったという方は、来訪者の利用実績を拝見した上で、判断させていただき、追加発行も検討しますので、ご連絡下さい。
- ⑧この取り組みが来年以降も継続できるためには
 - (1) 各施設の名刺を利用しての来館者が一定水準以上であること
 - (2) 名刺を作成しお持ちをいただいた皆様から、次も是非という希望があること
 - (3) 各施設の協力が得られること
- ⑨最後のお願い
 - 私たちのこの事業が地元地域から必要とされる事業かどうかの、判断基準が皆様のご利用状況にかかっております。よろしくお願い申し上げます。

二) 総括

約半年間の名刺提供期間となりました。贈呈させていただいた多くの皆様から、ありがたいとの声をいただきましたことが、この事業の意義が達成していることを実感として得ることができました。ただ、裏面の美術館の利用度は期待ほどは伸びていません。美術館では常設展のみの利用に限定されることが最大の障害と思われまます。結果的にはお一人当たり50円の特典の縮景園がもっとも利用度数が高いという結果がその証かと思われまます。今後は割引の拡充と、名刺贈呈者の拡大が、この事業の普及と都市の観光取り組み度及び印象の向上に繋がるものと考え、今後とも継続してゆくことが必要と考えまます。